NO.203 会社訪問

代表取締役 餘目（あまるめ） 義信（よしのぶ） 氏



共立医科器械株式会社

会社プロフィール
代 表 者：代表取締役 餘目 義信
本　　社：〒020-0013 岩手県盛岡市愛宕町 15-9 TEL.019(623)1205 FAX.019(653)5301
水沢支店：〒023-0826 岩手県奥州市水沢中田町 4-38 TEL.0197(25)6221 FAX.0197(25)6223
八戸支店：〒039-1166 青森県八戸市根城 3-18-3 TEL.0178(43)2923 FAX.0178(44)1957
営 業 所：矢巾 / さんりく / 弘前 / 青森 / 秋田 / 共立サポートセンター
設　　立：1953 年 (昭和 28 年）5 月
資 本 金：3,500 万円
従 業 員：220 名
事業内容：医療施設から調剤薬局、福祉施設、在宅介護医療現場での消耗品から小中大型機器他。理化学 · 工学 · 産業機器研究開発分野の小中大型機器他。乳成分測定装置、動物用高度管理などの畜産機器他。
U　R　L：https://kmic.co.jp

聞き手：岡田康弘（編集長）、取材・撮影・編集：クリエイティブ・レイ㈱

岩手県を中心に東北６県で、医療 · 研究 · 福祉の現場をカバーする地域と共に「生きる」を支える医療機器総合商社「共立医科器械」

御社の事業内容や特徴について、お聞かせください。

餘目　弊社は各種医療機関から調剤薬局、福祉施設、在宅介護医療まで、すべての医療に関わる現場をカバーする、地域に密着した医療機器の総合商社です。医療施設や介護福祉のフィールドでお役に立ち、困りごとの解決に繋がる提案を行っています。主に岩手県を中心に、青森・秋田県の一部と、広くは東北６県の地域医療を支える会社です。

医療の分野では、注射器やガーゼといった消耗品から、手術支援ロボットや放射線治療装置などの大型機器まで取り扱っております。

理化学機器や工学・産業機器などを扱う研究開発支援においても、大学・官公庁・企業さまより高い評価をいただいております。理化学分野では、ピペットやフラスコなどから電子顕微鏡や自動分析装置、セルソーターなどの大型機器まで取り扱っています。

また、本社所在地の地域特性として酪農が盛んなので、畜産に関わる頭絡（馬具）や花冠（飾り）といった器具、乳成分測定装置などの機器や動物用の高度管理医療機器まで取り扱っています。近年、東北地方では街中での熊の出没がニュースになっていますが、熊の駆除用吹き矢などのお問い合わせにも対応し、ご提供させていただいております。

創業時の経緯や当時の様子をお聞かせください。

餘目　創業は 1953 年（昭和 28）で、現在 73 年目です。創業者は私の祖父の餘目久吾です。祖父は 16 歳の時、盛岡市にある医療機器と医薬品の両方を販売している会社に年季奉公に上がりました。その後、業務に従事しながら２度の出征を経て、奉公を勤め上げていく中で、「日々進化する医療機器を扱っていくには、もっと専門的な知識を勉強して、アフターケアも大切にしていかなくてはならない」という想いを持ち始めていました。

1945 年（昭和 20）当時になると、関東や他県から医療機器販売会社が岩手県にも進出して来たので、「より専門性を持って得意先に提案していかなくてはならない、そのためには医療機器一本の会社にしていかなくてはならない…」という想いを持ち始めたそうです。その想いを店主に伝えて相談しましたが、なかなか受け入れてもらえなかったそうです。

そして 1953 年（昭和 28）、35 歳になった頃、「医療機器一本の総合会社にした方がよい」という想いがより強くなり、その頃には、関東や仙台などの県外から医療機器販売会社が岩手全県に販売視野を広げ、県内シェアの約半分くらいを他県の会社が占めるに至ったそうです。地元に自分たちのような以前からちゃんと根付いて仕事をしている会社があるのに、注文をもらうためだけの社員を置いているような会社に、仕事を持っていかれるのを大変不満に感じていました。医療機器を納めた後の保全管理、修理など、継続的なサービス向上が望めませんし、医療の発展も促進できない。「自分なら細かなケアもサービスもしっかり出来るのに…」と、悔しくもあり、不安でもあったそうです。

岩手県の医療の質、つまりは住民全体の健康にも関わることであり、県内医療のためにも地元に根付いて仕事をしている自分たちのような医療器械屋がもっとシェアを取り戻さなくてはならないと強く感じ、仕事の充実と新たな展開のために、是非とも医療機器一本でやって行きたかったそうです。その思いが頂点に達したとき、独立の二文字が脳裏に現れ、店主に伝えて創業に至ったそうです。

祖父の専門分野に力を入れていくという想いと、「東北他県を含めた同業者には負けたくない」という岩手魂は、今日も弊社に根付いています。

これまでに経営者として喜びを感じた事がございましたらお聞かせください。

餘目　岩手県人の特色として「寡黙で辛抱強く、生真面目で素朴だが、面倒見がよい人も多い」という気質がよく挙げられます。歴史的に厳しい自然環境と農業中心の暮らしが、我慢強さや粘り強さを育んだとされます。当社の社員も真面目で粘り強く、派手さは無いがコツコツと仕事をしてくれる社員が多いです。そういった社員の粘りが、お得意先から評価され、担当者と同行訪問した折に、お客さまから感謝の言葉を頂けるのが嬉しいです。

私個人としては、これまで仕事を通して色々な人と出会い、教えられ、仲を深めてきました。経営者になってからは、銀行の集まりや地元の先輩後輩とも交友を深め、刺激を受けながら、日々勉強させてもらっています。

これまでに困難だと感じた出来事をお聞かせください。

餘目　私が代表に就任して５年が経ちますが、今が一番困難というか、業務負荷のかかっている時期かもしれません。まだ詳細は語れませんが、当社の歴史の中でも非常に大きなプロジェクトに取り組んでいます。この記事が掲載される頃には一段落していれば良いなぁと思っておりますし、業界の一部の方には知れ渡っているかと思いますが、当社が 100 年を迎えて歴史を振り返ったときに、きっと大きなターニングポイントとして歴史に残る取り組みを現在準備しています。

あとは、代表に就任したのが 2021 年コロナ過で、いわゆる日常とは違う状況だったこと、今までの当たり前が当たり前ではなくなり、これまでのやり方を考えながら走らなくてはならなかったことでしょうか。社会を含め、他の会社もそうだったと思うので弊社に限った話ではありません。弊社の長い歴史の中で乗り越えてきた困難に比べると、たいしたことではなかったです。歴代の代表は 60 歳を超えて経験値も非常に高い方たちでしたが、私は 40 代の若輩で代表に就任したので、経験不足から来る内外からの逆風を感じたくらいです。（笑）

2023 年に 70 周年を迎え、売上 200 億円を達成された背景には、どのような要因があったとお考えですか。

餘目　達成が出来た要因は、一番大きいのは今までメーカーさんと築いてきた信頼関係のもと、当社に販売権を任せていただき、これまでメーカーさんが直接取引されていた領域でも弊社が得意先と取引を行えるようになったことです。他のメーカーさんとは、業界の特性として県ごとに営業エリアが決まっている中、メーカーさんのバックアップをいただきながら、仙台・山形・福島県など南東北においても特定の領域については、当社で営業活動をおこなうことが出来るようになり、営業活動の範囲を広げられたことも大きかったと思います。今まで当社が築いてきたメーカーさんとの信頼関係があったからこその取り組み拡大だったと思っていますし、こうした取り組みが積み重なった結果、売上 200 億円を超える成長に繋がったと思います。

御社の経営方針や経営理念をお聞かせください。

餘目　「誠実医療に奉仕」という社是のもと、地域医

科学機器　No.940　2026.10

経営資料

療のために、地域と共に生きるを支える企業でありたいという志を持って取り組んでいます。

2021年、私が代表に就任した時に社内に向けたメッセージで、「地域と共に、生きるを支える会社 」を目指しますと伝えました。家族や周りからは、共立医科ってどんな会社なの？と聞かれた時に、それまでは、「医療器械屋」「医療器械の卸」と答える人が多かったようです。これからはそうではなく、「あらゆる人々の健康を願い、充実した医療への奉仕」の想いを持ち、一人ひとりが胸を張り、誇りをもって、「地域と共に、『生きる』を支える会社です」と答えられる会社を作っていきます。その結果が、やがて社員満足、顧客満足に繋がると信じています。

地域貢献の具体的な活動をお聞かせください。

餘目　地域貢献の取り組みは、子ども食堂への寄付や運営団体と一緒に、ひとり親家庭の方々を対象としたバス遠足を夏休みと冬休みに企画、実施しています。遠足のお弁当やお菓子、協賛いただいた化粧品などを用意し、皆さんに楽しんでいただいています。このような支援活動を通して、子供たちからお手紙をいただくことがあり、その気持ちに触れると「やって良かったな」と感じています。私自身も５０歳になり、参加される親御さんと同じ年代なので、親の立場として共感するところも多く、こうした支援活動を続ける励みになっています。

現在の課題、今後の事業目標をお聞かせください。

餘目　物価高や人材不足など、多くの会社が抱える課題は共通だと思います。特に岩手県は、本州で最も広い県土をカバーするために、「県下にあまねく良質な医療の均てん化を」という理念のもと、県内に県立病院20病院を設置しているなど、全国一の公的医療機関のネットワークを構築しています。

岩手県に本社を置く会社としては、県の施策をもとに弊社も活動していくわけですが、広い県土をカバーしなくてはならないため、生産性の向上や効率UPなど、取り組まなくてはならない課題は山積しています。ただし、やり方を先に考えてしまうと、目先の利益や効率等しか考えないやり方になってしまうと思います。やり方を考える前に、まず会社としての在り方を考え、将来像を見据えたうえで、取り組みを考えていきたいと思っています。

コロナ過を経て新たな課題は、首都圏から４～500kmも離れた地域ということで、仕入先からはいわゆるメーカー機能を求められることが増えました。それはメーカー代行とも言うのでしょうか。弊社にとっては、仕入先からの信頼に基づいた依頼ということで、非常に大きいチャンスですので、創業の精神に則り、より専門性を高めて取り組んでいきたいと思っています。

人材不足については、都心部に出て行かなくても地元に魅力的な会社があるのだ、ということを学生だけでなく、先生や地域社会の皆さんに発信し続け、地元の学生たちに選ばれる会社を作っていきます。私は人が財産だと思っていますので、長く、そして楽しく、やりがいを感じて働ける環境を作っていきます。

ここからは餘目社長の個人的なことをお聞きします。
座右の銘やモットーなどをお聞かせください。

餘目　岩手に生まれた宮沢賢治の言葉や、恩師からいただいた言葉など、いくつもの言葉に支えられて来ましたが、ある医療法人の理事長就任パーティに参列させていただいた際に、就任のご挨拶で「宿命に生まれ、運命に挑み、使命に燃える」という言葉をお聞きしました。故・小渕恵三 元内閣総理大臣の言葉だということです。

その医療法人の新理事長も40代で代表に就任されたのですが、命が宿る宿命と、命を運ぶ運命、命を使う使命。自分の命が何に宿っているのか、どのように宿っているのかは、生まれた時に決まっていて、変えようがない。例えば、自分はなぜ日本で生まれたのか。なぜ自分の両親のもとで生まれたのか。宿命は、受け入れる以外ないわけです。そのうえで、そのような宿命になっていることに必ず何かの意味があるはずだと自分の宿命に感謝しながら、勉学や武芸に励んで、命を運ぶことが大切な姿勢だというお話でした。

運命は、命を運ぶと書きます。どこで何の仕事をするか、付き合う仲間をどうするかなど、自分で決めて自分の命を運びます。宿っている命をどのように運んでいきたいか、運んでいくかは、いくらでも変えようがあります。そして、自分の宿命を理解したうえで、どこに命を運んでいくか、何のために自分の命を使うのか、自分の使命の明確化に繋がっていきます。自分の宿命を認識したうえで、自分の使命を明確に定め、その定めた使命に向かって運命を切り開いていった先に命を祝う寿命があるのではないかというような事をおっしゃっていました。

私も会社の代表として、宿命、運命、使命を考えさせられ、あらためて己の心にスイッチを入れていただいたお言葉でした。

趣味、休日に楽しんでいることをお聞かせください。

餘目　岩手県は四国全土とほぼ同じ面積で、本州最大の広さと豊かな自然を有しています。特に四季折々の楽しみを味わえる地域だと自負しています。そういった恵まれた環境で、ゴルフやスキーといったアクティビティを楽しむことが多いです。ゴルフ場は弊社から車で１０分のところにありますし、スキー場も盛岡市内から３０分も車で走れば楽しむことが出来ます。盛岡の小中学校では、授業でスキーの時間がありますので、子供を連れて毎シーズンスキーを楽しんでいます。

また会社の仲間と、本州一寒いとも言われる場所にある「岩洞湖でワカサギ釣り」を楽しんでいます。冬になると氷点下２０度を下回る気温の岩洞湖では、湖面が厚い氷で覆われます。凍った湖面をアイスドリルで穴を空け、糸を垂らし、深いところでは海底２０メートルを超える場所に住むワカサギを釣ります。そのサイズは５～１０ｃｍ前後になりますが、海底に居るワカサギとの見えない駆け引きも楽しいですし、なにより氷点下の大自然の中で仲間と飲むコーヒーやカップラーメンが、芯まで冷えた体を温め、心から美味しく感じる至福の時間なのです。

協会に対しご意見などがありましたらお願いします。

餘目　長きに渡り大変お世話になっております。参画企業の皆さんは、会社の規模や分野も違うわけですが、横のつながりを大事にしながら業界発展に向けてご協力させていただきたいと考えております。

個人的なことですが、この春、中学生になる息子が科学部に入りました。息子の学校は科学部が人気で、部員数も多いそうです。昨今、残念なことに科学に興味を持つ子どもたちが少なくなっていると聞きました。これまで、科学機器協会でも子供たちが科学に興味を持てるようなイベントに取り組んでいただいていますが、これまで以上に科学の裾野を広げるような啓蒙活動をお願いしたいと思います。



前代表の退任祝い：令和８年６月本社前にて
前列中央に餘目義信社長と小野寺壽和前代表

本社外観：盛岡市愛宕町





弊社全体会議：令和８年４月



令和８年度入社式：４月